

非常勤教員

氏名	井上 みのり				
学位	修士（文学）				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育原理	（学術論文等） 1. 『移動の時代』を巡る地域社会教育の展望と課題—長野県伊那群泰阜村の共同調査	共著	2023年3月		日本社会教育学会の若手研究者を対象とする助成を受け、長野県泰阜村における調査内容について論文を執筆した。「中国帰国子女および特別学級講師が綴る葛藤—1970年代における旧泰阜南中学校の特別学級参加者の文章から—」では、生涯学習および地域の多文化共生の観点から、中国帰国子女と講師が直面した特別学級や就労における葛藤について論じた。
	2. 「日本の学校教育における外国人児童の学習および支援の課題—教育原理と多文化共生の視座から—」	単著	2024年3月		教育原理および多文化共生の観点から、学校教育において外国人児童が取りこぼされ縁辺化されてきた現状を、日本の教育原理を概観して論じた。

氏名	吉野 巖				
学位	博士（行動科学）				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育心理学	（学術論文等） 1. 音響・音楽心理学（執筆担当：第6章 音楽の認知）	共著	2021年3月	北大路書房	テレビ番組の効果音に気分を誘導されたり、印象深いメロディをつい口ずさんだりなど、人の心や行動は音により日々影響されている。なぜ、どのようにして起こるのか。音響・音楽心理学は、認知や知覚のメカニズムとプロセスを調べ、音楽が心理や身体に及ぼす科学的な効果を解き明かし、その社会的実践や魅力をあまねく紹介した。
	2. 調認知過程のモデル：記号処理モデルとコネクショニストモデル、構造・機能モデルと出現頻度モデルなどの比較	単著	2021年3月	音楽知覚認知研究	メロディ認知における調認知過程のモデルについて概観・解説した。まず、調性それ自体や調認知モデルを構築することの意味について確認した後、記号処理モデルかコネクショニストモデルか、構造・機能モデルか出現頻度モデルか、時系列情報を利用するかどうかなど、調認知モデルのいくつかの分類について述べた。次に、代表的な調認知モデルとして、いくつかの記号処理モデル、出現頻度モデル、コネクショニストモデルの基本的な仕組みとシミュレーションについて概観した。各モデルに関して、処理の漸進性、和声的処理の位置づけ、西洋音楽以外の音楽への応用可能性、記号的処理あるいはコネクショニスト的処理としての長所や特徴、について比較検討することにより、調認知モデルのあるべき姿について議論した。

氏名	橋本 尚典				
学位	学士（社会福祉学）				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
生徒・進路指導論	(学術論文等) 1. コロナ禍における学校と総合的な学習の時間・特別活動の在り方	共著	2022年4月	札幌学院大学教職課程委員会『SGU教師教育研究第36号』	コロナ禍の学校状況、とりわけ特別活動の縮小や活動の廃止、改変と、総合的な学習の時間のあり方について、とりわけキャリア教育としてどの中学校も職場体験をしてきたことに対して、職場体験にこだわらないキャリア教育の必要性について論じた。
	2. 主権者教育からみえた若者の本音	共著	2023年1月	全国生活指導研究協議会北海道支部『北海道の生活指導27号』	大学の授業で「主権者教育」を取り上げた。その際、国政選挙への投票と若者たちの投票率の低さについて議論した時に知った若者の選挙や政治社会に対しての意識や思いについて論じた。

氏名	松田 剛史				
学位	修士（教育学）				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育課程論	(学術論文等) 1. ESDを意識した教職課程科目「特別活動」フィールドワークの実践	単著	2019年3月		学校教育における特別活動に関する科目での学びについて扱い、本科目で学ぶ学生が特別活動で身に付けたい資質・能力や態度を理解したうえで、指導計画や学習指導案を作成するための演習とした実施したフィールドワークの記録を中心に述べた。また、持続可能な開発のための教育（ESD）の視点を意識し、本領域の実践に際して整理軸となり得るかについても検討した。
	(著書) 1. ESDでひらく未来シリーズ 持続可能な未来のための教育制度論	共著	2018年3月	学文社	本書の独自性は「21世紀の〈教育制度〉は現在のままでは持続しない」という強い危機感に裏打ちされ、解決が必要な数々の教育課題の解決に向けて教員自らが「自分ごと」として構想することを主眼を据えていることにある。 執筆箇所：第3章 中学校社会科ではぐくむ持続可能な社会を創造する力

氏名	荒井 亮子				
学位	学士(教育学)				
担当授業科目	著書・学術論文等の名称	単著共著	年月	発行所等	概要
道徳教育の理論と実践	(著書) 1. 道徳実践事例集	単著	2021年3月	全国小学校道徳教育研究会	自校の実践をもとにした道徳を要とした教育課程の編成と実施について研究の成果を執筆した。札幌市立琴似小学校に於いて2年間取り組んできた「特別な教科 道徳」の授業改善について実際の授業の板書、発問の工夫による児童の反応の変化について執筆した。また「特別の教科 道徳」と特別活動の関連を踏まえた年間プランを作成し、職員、保護者、地域の理解を生み出しながら進めていった実践について執筆した。
	2. 道徳を要とした教育課程の編成と実施についての研究論文	単著	2022年4月	日本教育公務員共済会北海道支部	道徳科の授業と日常的教育活動との関連についての実践報告を掲載。札幌市立琴似小学校に於いてコロナ禍後、学校再開時にどのようなことを大切にしてきたかについて執筆した。学校児童アンケートの数値が取り組みによってどう変化していったか、学校教育目標、学校重点目標の具現化に向けて実際の道徳科の授業と特別活動をどのように関連させながら児童の育ちにつなげていったかについて研究の成果を執筆した。

氏名	望月 由美子				
学位	博士(文学)				
担当授業科目	著書・学術論文等の名称	単著共著	年月	発行所等	概要
教育制度論	(学術論文等) 1. 「外国人児童生徒の教育保障に関する法整備と行政介入の日伊比較」	単著	2023年	『子ども発達臨床研究』第17号	イタリアのトレント自治県における外国人児童生徒の就学及び教育保障に関する政策、条件整備を取り上げ、行政側からの積極的かつ、範囲限定的な介入措置の重要性について検証した。
	2. 「イタリアにおける外国人子弟の教育政策とインターカルチュラル教育—2006年と2014年の「外国人生徒の受入れと統合に関するガイドライン」の分析を通じて—」	単著	2021年	『公教育システム研究』（北海道大学大学院 教育学研究員 教育行政学研究室／学校経営論研究室）	急増する移民第二世代の子どもたちの就学状況に関する統計データを検証し、イタリア教育省が目指すインターカルチュラル（文化間）教育を通じた彼らの社会統合と多文化共生社会のあり方を考察した論文。
	(著書) 1. 「外国人児童をどう受け入れる」	単著	2022年	北海道新聞「悩みごとナビ」（2022年8月3日）	日本における外国ルーツの児童生徒が抱える言葉の障壁を乗り越える教育方法としてのインターカルチュラル教育の提案を行った記事。

氏名	田村 千波				
学位	学士（教養）				
担当授業科目	著書・学術論文の名称等	単著共著	年月	発行所等	概要
教育相談の基礎と方法	（著書） 1. スクールソーシャルワーカー実践の今日的課題 －発達障がい、HSC、愛着の不形成を抱える児童生徒への支援に焦点を定めて－	単著	2021年	全国障害者問題研究会北海道支部会報 Kaihou 2021年度第6号〈研究紀要号〉	集団への不適応を起こしやすい発達障がい、愛着の不形成、HSC（Highly Sensitive Child：敏感すぎる子ども）、を抱える児童生徒の支援事例を記した。近年、真面目だが、やる前不安、振り返り不安を抱えるHSCや、保護者に愛情はあるが、子どもの要求と相違がある、過干渉等から子どもが問題行動を起こす愛着の不形成の相談が増加し、これらが重なり解決が困難な場合も多く、学校現場にその理解と対応を求めることを目的とした実践報告である。
	1. ヤングケアラー支援におけるスクールソーシャルワーカー視点の必要性	単著	2023年	全国障害者問題研究会北海道支部会報 Kaihou 2023年度第2号	ヤングケアラーとは家族にケアを要する人がいて、大人が担うような責任を引き受け、家事や介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どものことである。本稿では、ヤングケアラーには家族全体への支援が必要で、学校にはその発見に大きな役割があると指摘している。また、条例化はされたが支援制度がない中で、各機関が職種を重ねて歩み寄る「のりしろ型支援」が必要とし、SSWの視点を活かした支援の体系化を目的とした論文である。